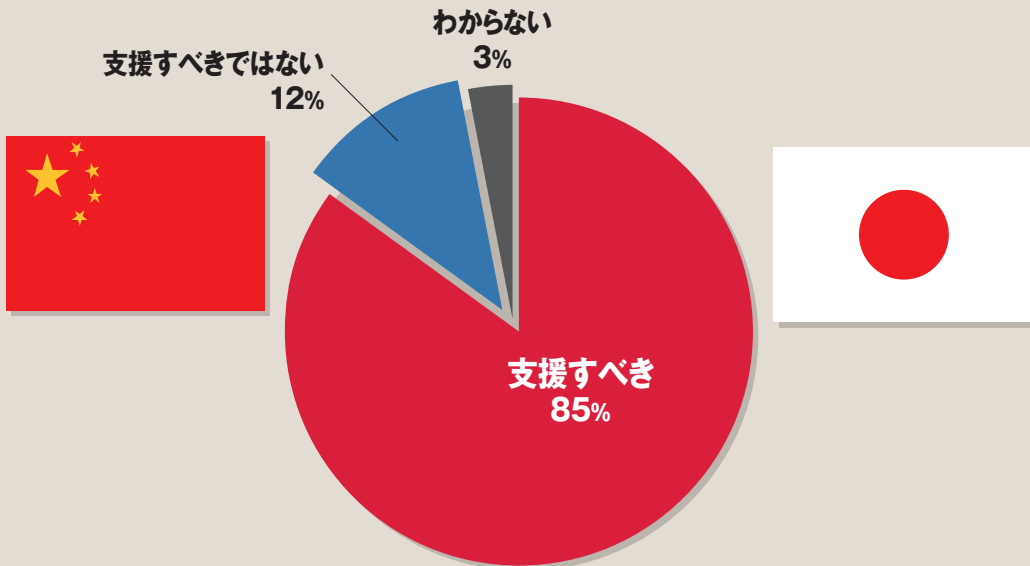


大震災で中国の対日感情が好転 ネット世界で応援ムードが高揚

8割以上が賛成

中国は日本に支援をすべきか



*2011年3月13日9時現在
出所：鳳凰網

FLINT HILL

東日本大震災は日本社会に大きなダメージを与えたが、ギクシャクしていた日中関係には思わぬプラスの影響を及ぼしたようだ。2008年の四川大地震

がなお記憶に残ることもあって、未曾有の自然災害を前に、日本人と中国人の心理的距離が縮まった。

過去の戦争によって、中国では日本人に対して根強い不信感と憎しみを持つ人が多い。そこに起因して多くの誤解が生まれた。たとえば、民主化で戦後の日本社会が大きく変わったにもかかわらず、多くの中国人の心の中では、いまだに中国人を殺戮していた戦時の日本兵のイメージが払拭できていない。そのため、巨大地震と津波が東日本を襲ったとの情報が伝えられた直後、「これは天罰だ」と、一部の中国人が本能的に喝采した。しかしその後、大きな難局にもかかわらず、日本社会が秩序を保ち、人びとが助け合っているシーンがテレビやインターネットなどを通じて続々と伝えられるにつれて、「これは本当の日本人だ」と多くの人が驚き、感動した。この結果、知識人を中心に中国社会で激しい反省の波が巻き起こった。「過去の戦争で大きな被害を受け

日本総合研究所
理事
呉 軍華
Wu Junhua

たとはいえ、日本をはじめとする列強への憎しみを植え付けるような教育はやめるべきだ」や「未曾有の自然災害を前に、われわれは今、共に日本人だ」

「3年前の四川大地震に支援してくれた日本にわれわれが恩返しをするときがきた」といった声や主張がブログを中心に展開された。反日的論調が圧倒的であったネット世界で日本を応援するムードが急速に高まった。今回の大震災を契機に中国人びとの対日感情が大きく好転したのである。

ち

なみに、3月13日に香港を根拠地とする中国系の鳳凰テレビ傘下の鳳凰網が「中国は日本に支援をすべきか」との題で行ったアンケート調査に110万人も参加し、このうち、支援すべきと答えた人が85%にも達した。

むろん、尖閣諸島（中国名：釣魚島）や東シナ海の油田開発などをめぐるさまざまな対立点が存在している状況の下で、日中関係がこのまま順風満帆に進むことはまずありえない。

しかし、大震災によって少なくとも日本社会、日本人に対する中国人びとの認識がより実態に近づいたといえよう。